

令和元年度

第2回 野田市生物多様性のだ戦略市民会議

日時 令和2年2月26日（水）

午後3時30分から

場所 市役所低層棟4階 委員会室

会 議 次 第

1 開会

2 会長挨拶

3 諮問

4 議題

(1) 第2期生物多様性のだ戦略策定の進め方について 【資料1】

(2) 自然環境調査の計画（案）について 【資料2】

(3) 社会環境調査の計画（案）について 【資料3】

5 その他

6 閉会

(1) 第2期生物多様性のだ戦略策定の進め方について

① 目的

平成27年3月に策定した「生物多様性のだ戦略」の進捗・成果をはかるとともに、今後の更なる展開に向けて見直しをした「生物多様性のだ戦略」を策定することを目的とする。

② 概要

現戦略は、「生物多様性基本法」第13条に定められた生物多様性地域戦略であり、「生物多様性国家戦略2010」を踏まえて策定したものである。野田市の総合計画において野田市の活力の維持・向上を目指す長期的な成長戦略として位置付け、5つの目標に沿って、2020年までに実施する33の施策を集中的に取り組んできた。策定から5年が経過したことから生物多様性・自然再生事業の推進にあたり、今後の更なる展開に向けて見直しを行う。

野田市の自然環境づくりのシンボルであるコウノトリを野田市の自然環境や自然環境を活かした地域づくりのみならず、社会・経済・観光・教育・歴史などの観点を組み込んだ、市民目線での分かりやすい「生物多様性のだ戦略」の提案をする。

③ 答申

令和3年度中

『生物多様性のだ戦略』策定の経緯と第2期策定のスケジュール（案）

年 度	調査・検討予定	備 考
平成23年度 (2011年度)	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境調査の実施 (H23.8~H24.1) 市民アンケートの実施 (H23.11~12) 戦略の基本方針の検討 	
平成24年度 (2012年度)	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境調査の実施 (H24.4~8) 生物多様性戦略素案の作成・検討 	<ul style="list-style-type: none"> コウノトリ飼育開始
平成25年度 (2013年度)	<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性戦略の検討 	
平成26年度 (2014年度)	<ul style="list-style-type: none"> 「生物多様性のだ戦略（案）」の検討 戦略への市民意見の聴取・反映 「生物多様性のだ戦略」戦略の策定・公表 	
平成27年度 (2015年度)	<p style="text-align: center;">戦略の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国連サミット持続可能な開発のための2030アジェンダ（目標：SDGs）（H27年度） コウノトリ試験放鳥開始（H27年度）
平成28年度 (2016年度)		
平成29年度 (2017年度)		
平成30年度 (2018年度)		
令和元年度 (2019年度)	<ul style="list-style-type: none"> ■第2期戦略検討スタート 「野田市生物多様性のだ戦略市民会議」の設置 第2期戦略策定の進め方、調査実施方法等についての検討 市民会議の開催（11月、2月） 	
令和2年度 (2020年度)	<ul style="list-style-type: none"> ■基礎調査の実施と戦略進捗の評価 自然環境調査の実施（夏・秋・冬調査） 戦略の見直し検討の実施（目指す将来像、目標、指標種、施策、計画の推進・管理体制等） 市民会議の開催（調査結果報告等） 	<ul style="list-style-type: none"> 「愛知目標」（生物多様性条約）の評価公表 COP15（中国）
令和3年度 (2021年度)	<ul style="list-style-type: none"> ■第2期戦略（案）の作成 自然環境調査の実施（春調査） 調査結果等に基づく「第2期生物多様性のだ戦略（素案）」の作成・検討 市民会議の開催（調査結果報告、素案作成・答申等） パブリックコメント（市民意見聴取）の実施 「第2期生物多様性のだ戦略」の策定 	<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性国家戦略の改訂（見込）

※スケジュールはすべて予定であり、調査状況および進行状況により随時変更します。

(2) 自然環境調査の計画（案）について

1. 調査・検討内容

野田市における生物多様性に係る現状把握として、以下の調査・検討を行います。

- 現戦略で実施した市内 15 拠点の調査地点をベースに、現状を踏まえつつ、野田市で守るべき自然の保全、生物多様性保全の観点から改めて調査地点を選定し、市民団体等の協力を得て春・夏・秋・冬季における動植物調査を実施する。前回調査との比較で、この間の自然環境の変化を把握するとともに、前回調査で掲げた目標の進捗についても評価を行う。
- 生物多様性に係る野田市における歴史・文化及び社会的側面からの情報についても、現戦略策定時の調査をベースに補足調査を実施し、市民生活との関わりにおける生物多様性の果たしている役割や自然環境を活かした地域づくりについても検討を行う。
- 調査結果を踏まえ、目標や指標種の確認、今後の取組みに向けた課題や必要となる新たな視点等について検討・整理を行う。

2. スケジュール（案）

自然環境調査に係る主なスケジュールの案を以下に示す。

令和元年度 (2019 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 第 2 回市民会議：自然環境調査実施（案）の検討
令和 2 年度 (2020 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 第 1 回市民会議：市内の主な自然環境拠点の現地確認 ● 調査協力員による打合せの実施：調査地点の概査、調査方法・時期やとりまとめに関する方向性の調整 ● 夏季調査の実施 ● 秋季調査の実施 ● 冬季調査の実施 <p style="text-align: right;">} 市民会議：調査速報の報告実施</p>
令和 3 年度 (2021 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 春季調査の実施 ● 市民会議での調査結果報告の実施 ● 自然環境調査結果の取りまとめ、分析の実施 ● 「第 2 期生物多様性のだ戦略」への反映

3. 自然環境調査実施（案）

①目的

野田市の生物多様性の現状における特性、過去の調査結果等と比較しての変化の把握や取組の進捗評価、目指すべき目標や指標種、課題を明らかにするための基礎情報を得ることを目的として実施する。

②調査対象と調査時期

下表の分類群・時期を対象に実施するものとする。

調査方法については、前回調査を踏襲しつつ、調査協力員との調整で変更・改善等を行うものとする。

表 対象分類群・調査実施時期（案）

分類群 / 調査時期	春季	夏季	秋季	冬季	備考
植物	●	●	●		
哺乳類	●	●	●		
鳥類	●	●	●	●	※渡り、繁殖に留意
両生類・爬虫類	●	●	●		※早春は春季に含む
昆虫類・クモ類	●	●	●		
水生動物 (魚類、甲殻類、貝類)	●	●	●	●	※水域の連続性、冬季の生物多様性を高めることを視野に調査実施
歴史・文化・食・暮らし (対象案)	<ul style="list-style-type: none"> ・昔の自然環境景観の写真（水田、沼、河川、里山等） ・身近な生きものと食、暮らしとの関わり 				

<季節ごとの期間設定（例）>

春季：3～5月

夏季：6～8月

秋季：9～11月

冬季：12～2月



表 前回調査での区分と調査協力者

調査対象	調査協力者
植物・植生	野田自然保護連合会・岩槻秀明氏 利根運河の生態系を守る会・柳澤朝江氏
陸上動物 (主に野鳥)	野田自然保護連合会・田中勝美氏ほか 野田野鳥同好会会員
水生動物 (魚類、甲殻類、貝類)	野田自然保護連合会・柄澤保彦氏 利根運河の生態系を守る会・田中利勝氏
歴史（自然史）	東葛自然と文化研究所の新保國弘氏ほか

③調査方法

調査方法については、分類群ごとにおよそ以下の方法が想定される。ただし、具体的な方法については、調査協力員との調整によって決めるものとする。

表 分類群等の調査方法（例）

分類群	調査方法（例）
植物	目視
哺乳類	目視、痕跡等
鳥類	目視、鳴き声、痕跡
両生類・爬虫類	目視等
昆虫類・クモ類	目視、見つけ取り等
水生動物（魚類、甲殻類、貝類）	目視、水域に応じた漁具（タモ網等）
歴史・文化・食・暮らし	文献調査、聞き取り

※留意点

- 指標種及び保全・再生目標を確認する
 - 前戦略で掲げた指標種や保全・再生目標の実現状況について確認を行う。
- 調査結果について市民への生物多様性に関する普及啓発に活用する（生きものの写真・美しい自然景観の写真の蓄積）
 - 調査や戦略策定を通じ、一般市民に広く野田の自然の魅力や大切さを知ってもらうため、調査地の風景や生きものの写真の蓄積を図る。

④調査地点

調査地点の選定については、下記の各点に留意するものとする。

- 現戦略策定時に実施した 15 地点をベースとし、前回調査との比較により環境の変化や取組の進捗、課題を明確にできるようにする。
- 野田市の生物多様性を保全する上で特に重要と考えられる自然拠点を含めるようにする。
- 野田市の特徴的な自然環境（ビオトープ）のタイプが網羅されるよう留意する。その際、自然環境の良さだけでなく、野田市の生物多様性を考える上で必要と考えられる自然環境のタイプの選定にも留意する。
- 野田市の自然環境、土地利用上の特性を把握できるように留意する。

次ページ以降、現戦略策定時に実施した調査地点を示す。

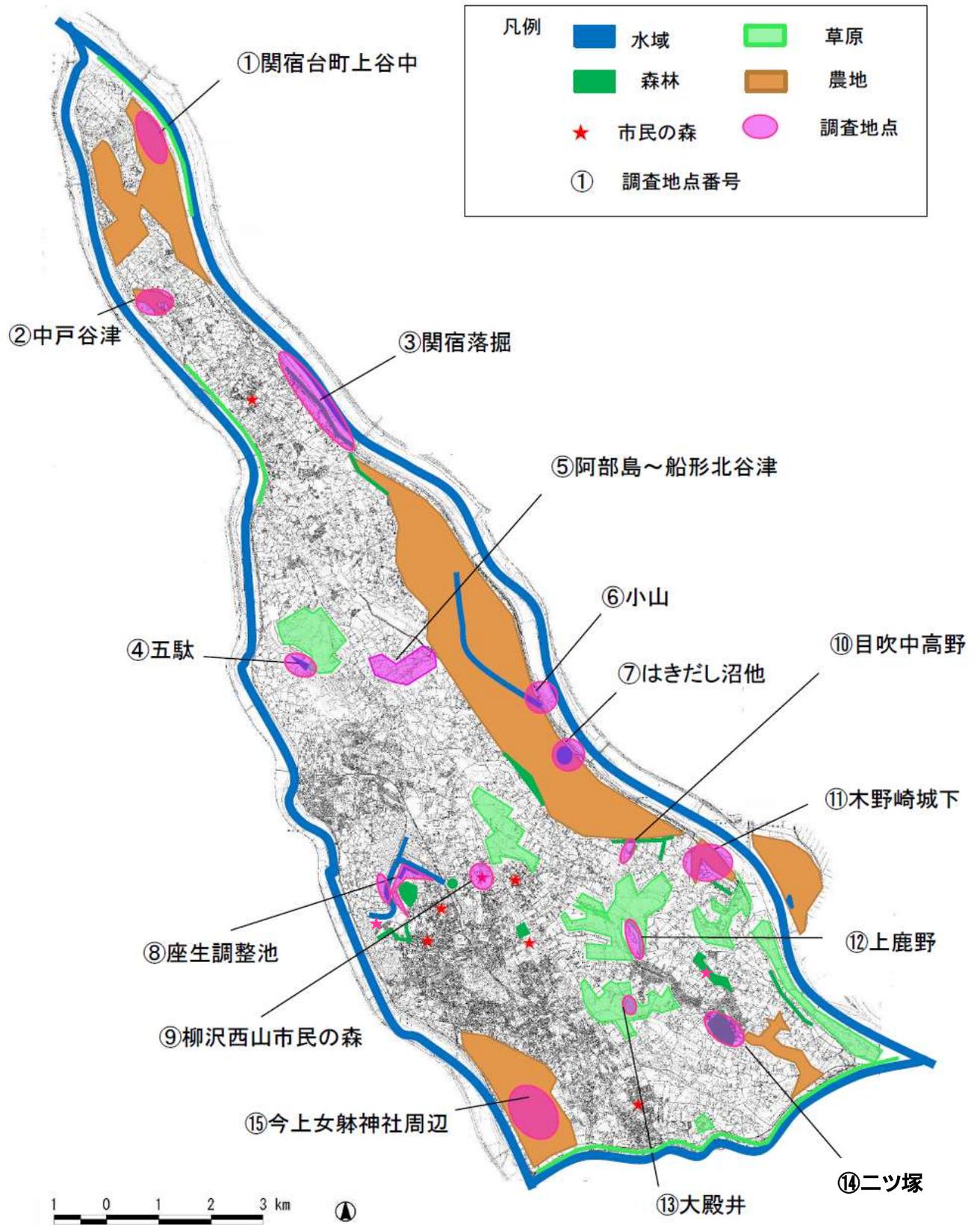


図 前回（現戦略策定時）の調査地点

表 前回（現戦略策定時）の調査地点と今回の調査地点

No.	調査地名	前回	第2期	備 考
		2011 -2012 年度	2020 -2021 年度	
1	関宿台町上谷中	●		
2	中戸谷津	●		
3	関宿落堀～関宿ビオトープ	●		
4	五駄（五駄沼周辺）	●		
5	阿部島～船形北谷津	●		
6	小山・小船形水辺公園	●		河川湿地と周辺水田
7	はきだし沼	●		水神沼など近隣の沼と併せて実施するか要検討
8	座生調整池	●		
9	柳沢西山市民の森	●		柳沢北耕地市民の森と併せて実施するか要検討
10	目吹中高野	●		
11	木野崎城下	●		沼および周辺水田、斜面林
12	上鹿野	●		
13	大殿井	●		斜面林、細流
14	二ツ塚	●		ハンノキ林、湿地
15	今上耕地	●		調査地点の変更も含め実施について要検討
		—		
		—		
		—		
		—		
		—		
		—		
	計	15 地点	※	※15 地点前後

※利根川、江戸川、利根運河は、国交省水辺の国勢調査の結果を活用するものとする。

<参考 1> 調査候補地等概況

(調査地ごとの現状写真/調査対象となる環境/前回確認の指標種等)

(※No. 1～15 は 2020/2/3 撮影)

1 関宿台町・上谷中	2 中戸谷津
	
用水路、堤防沿いの土水路、水田、堤防法面の草地	用水路、水田、斜面林 湧水のある小水路
トウキョウダルマガエル、キクモ等	イトトリゲモ、ミズカマキリ、トウキョウダルマガエル、セリ等
3 関宿落堀 →関宿ビオトープ	4 五駄
	
水路、堤防法面の草地、水田	沼、水田、樹林、用水路
イチョウウキゴケ、キクモ、カワセミ等	アオヤンマ、タコノアシ、カイツブリ等
5 阿部島～船形北谷津	6 小山・小船橋 (水辺公園付近)
	
用水路、湿地、樹林地 ※付近で開発計画有り、イノシシ出没	用水路、樹林、水田
シュンラン、ノカンゾウ、ジュズカケハゼ、コゲラ等	ハンノキ、アキアカネ等

7 はきだし沼・水神沼	8 座生調整池
	
沼・ため池、水田	湿地、樹林、用水路、河川
セスジイトトンボ、バン、ヒシ等	ハンノキ、アズマヒキガエル、カワセミ、サギ類の繁殖 等

9 柳沢西山市民の森	10 目吹中高野
	
湿地、樹林	湿地、水田、用水路
ヤブヤンマ、ハンノキ、アカゲラ等	ワタラセツリフネソウ、メダカ等

11 木野崎城下	12 上鹿野
	
沼・ため池、樹林、用水路、水田	樹林、草地、湿地、用水路
チョウトンボ、アキアカネ、サシバ、タコノアシ、シャジクモ等	ハンノキ、ニホンアカガエル、サラサヤンマ等

13 大殿井	14 ニツ塚
	
土水路（湧水）、樹林、湿地、水田	樹林、湿地、土水路（湧水）、水田（放棄田）
ニホンアカガエル、サラサヤンマ、メダカ等 （以前はホタル生息）	ハンノキ林、ヒメアカネ、コゲラ、オニスゲ 等（昔はホタル生息）

15 今上耕地（前調査地の北部）

水田、用水路
セリ、トウキョウダルマガエル、シギ・チドリ 類等

<参考2> 野田市内の主要な自然拠点

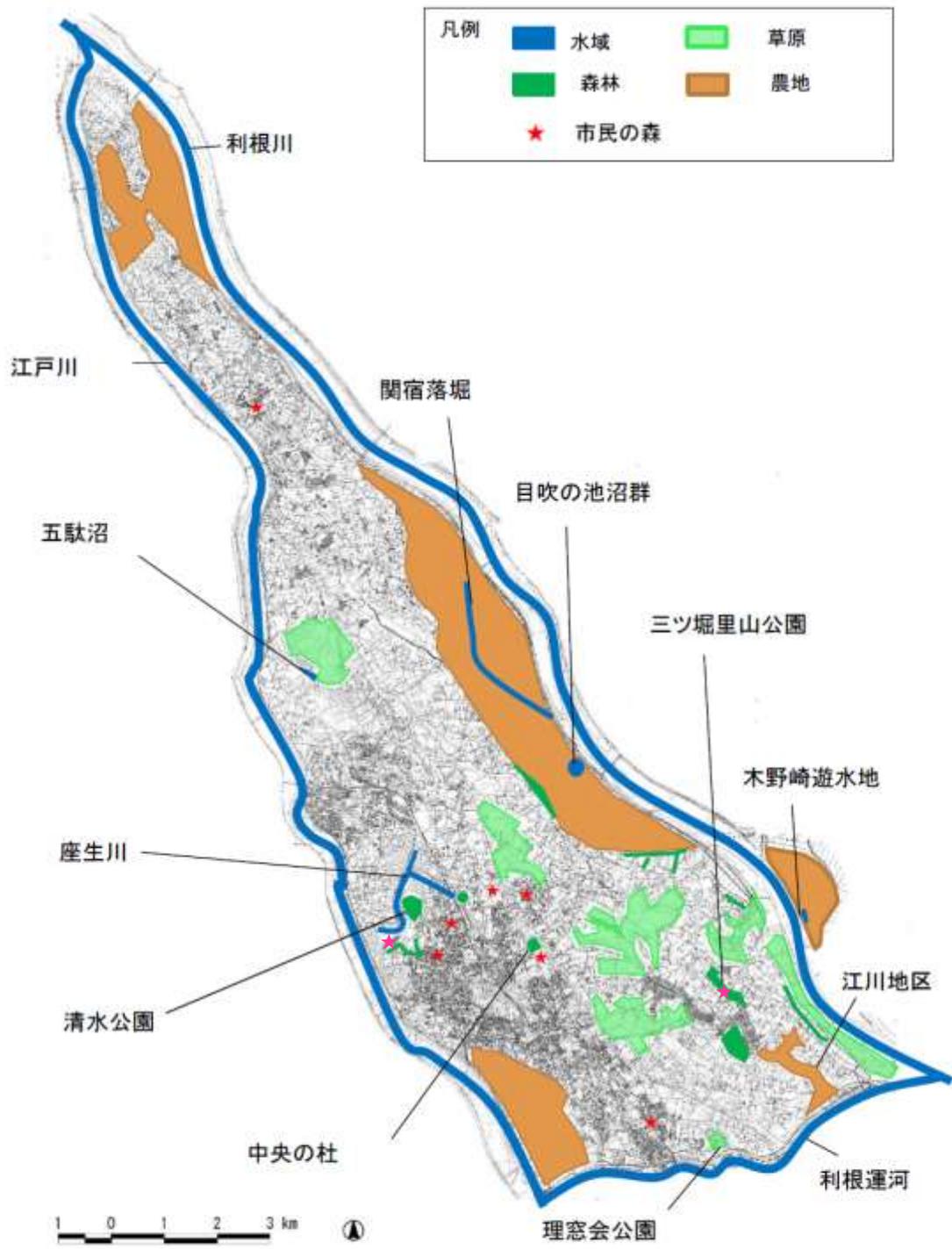
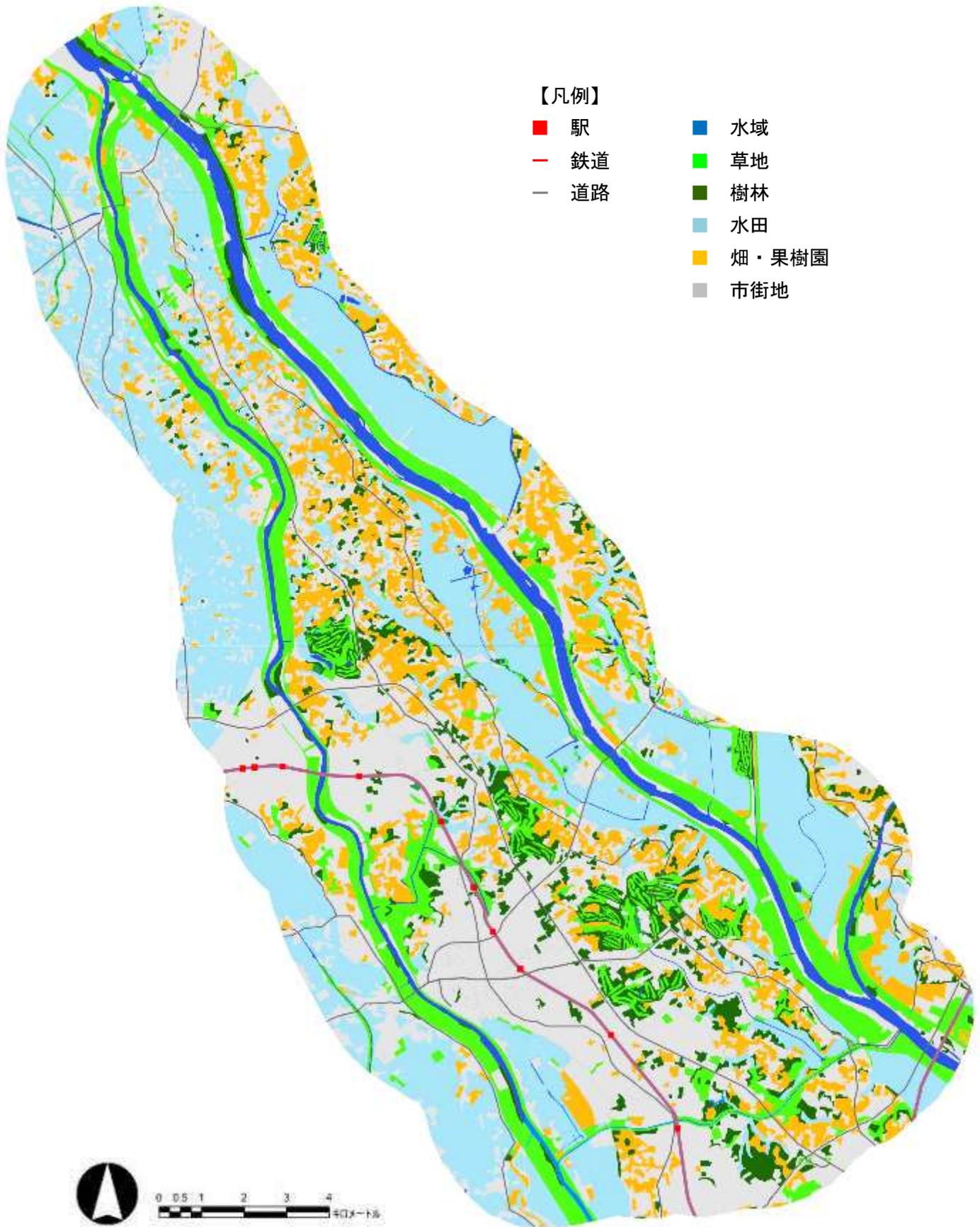


図 野田市内の主要な自然の拠点

- ★市民の森（9カ所）
- 山崎市民の森
 - 宮崎市民の森
 - 清水市民の森
 - 柳沢西山市民の森
 - 柳沢北耕地市民の森
 - 親野井市民の森
 - 清水修景緑地
 - 岩名修景緑地
 - 三ツ堀市民の森

ビオトープタイプ区分		ビオトープタイプの概要	前回調査で確認されなかった指標種	前回調査で確認された外来種	かつて見られたが姿を消した種(歴史調査より)	保全・再生の目標
水域	河川	利根川、江戸川	(前回調査対象外)	ホテイアオイ オオフサモ ブルーギル オオクチバス カムルチー タイリクバラタナゴ アメリカザリガニ	シジミ イワナ ジュンサイ	浅水域の保全 湧水の保全 水域エコロジカル・ネットワークの再生 多様な水辺空間の再生 外来種対策
	小河川・水路	利根運河の他、中小河川、農業用幹線排水路、雨水排水路等	ホンドイタチ、タナゴ類			
	池沼	池沼やため池などの湛水域・止水域	ホンドイタチ、タナゴ類、コオイムシ、タイコウチ、ミズカマキリ、アメンボ			
	砂礫地	河川敷の砂礫地、洲など、植生がないか非常にまばらな場所	ホンドイタチ、コアジサシ、イカルチドリ			
草地	湿性草地	ヨシ群落、オギ群落、耕作放棄水田など	カヤネズミ、ホンドイタチ、ジムグリ	アレチウリ セイタカアワダチソウ	アヤメ サギソウ	湿地の保全 外来植物の駆除 ヨシ原の再生
	乾性草地	堤防、谷津周辺の草地、耕作放棄畑など	アズマモグラ、アカネズミ、ハタネズミ、マツムシ、キリギリス			
樹林	落葉広葉樹林	コナラ林など、落葉広葉樹主体の樹林	アカネズミ、アズマモグラ、ニホンリス、ジネズミ、アオグラ、オオミドリシジミ、ヒメマイマイカブリ、タマムシ	ハリエンジュ トウネズミモチ セイタカアワダチソウ	—	樹林地の保全 下層植生の適切な管理 外来植物の駆除 湿生林の再生
	常緑広葉樹林	シラカシ林など、常緑広葉樹主体の樹林				
	湿生林	湿地や水辺のハンノキ林、ヤナギ林など	ヒメマイマイカブリ			
	針葉樹林	スギ、ヒノキ植林、アカマツ植林など、針葉樹を主体とする樹林	ヒメマイマイカブリ			
	竹林	モウソウチク林、マダケ林、ハチク林など	—			
農地	水田	水を張って工作をする農地 ※休耕田、畦、農業用水路を含む	アカネズミ、コオイムシ	タイリクバラタナゴ アメリカザリガニ セイタカアワダチソウ オオフサモ	—	環境にやさしい農業の実践 水田の冬期湛水 冬期の生息場の確保 水路と水田のネットワーク再生 遊休農地の機能回復
	畑・果樹園	水田以外の耕作地	アズマモグラ、ジネズミ			
市街地	市街地	住宅地、工場地帯など ※緑の多い住宅地化を想定した種	(前回調査対象外)		—	ビオトープの創出 在来種による街路樹ネットワーク形成
	公園など	公園、芝地(ゴルフ場等)、グラウンド、造成地など	(前回調査対象外)		—	ビオトープのエコアップ
総合指標種		複数の環境を利用する種	フクロウ、アカギツネ、タナゴ類	—	—	エコロジカル・ネットワークの保全・再生

<参考4>野田市の土地利用



(出典：第7回自然協保全基礎調査(2.5万分の1植生図)より作成)

<参考5>野田市の土地利用

(出典：野田市統計資料)

表 現在の土地利用（平成30年1月1日）

		面積 (㎡)	割合 (%)	面積の増減
田		12,886,367	12.4	▼
畑		17,306,639	16.7	▼
宅地		24,495,471	23.7	△
池沼		296,659	0.3	▼
山林		5,655,775	5.5	▼
原野		119,672	0.1	▼
雑種地	ゴルフ場用地	3,971,705	3.8	▼
	その他	8,217,244	7.9	△
その他		30,600,468	29.6	△
合計		103,550,000	100	

表 7年前の土地利用（平成23年1月1日）

		面積 (㎡)	割合 (%)
田		13,173,559	12.7
畑		18,298,380	17.7
宅地		23,979,633	23.2
池沼		301,153	0.3
山林		5,763,424	5.6
原野		126,102	0.1
雑種地	ゴルフ場用地	4,459,641	4.3
	その他	7,046,760	6.8
その他		30,391,348	29.4
合計		103,540,000	100.1

※割合 (%)：各項目で少数第二位を四捨五入しているため 100%にあわない。

※総面積：平成26年10月、国土地理院が国土面積の計測方法を変更（高精度化）したことに伴い野田市の土地面積合計が変更。(103,540,000㎡→103,550,000㎡)

(3) 社会環境調査の計画（案）について

1. 調査・検討内容

野田市における現戦略に示された社会環境に関する取組みの現状把握について、以下の調査・検討を行います。

- 市内の社会環境の現況把握として、前回調査で実施した市内の小学5年生及びその保護者を対象とするアンケート調査について、アンケートの設問や配布・回収方法等の調査計画の検討を行います。なお、アンケートの設問は、前回調査からの市民意識の変化や、自然と共存するまちづくりのシンボルであるコウノトリに係る認識も把握できるよう留意します。
- 調査計画に基づいて市内の小学5年生及びその保護者を対象とするアンケート調査を行います。アンケートの調査結果について、前回の調査結果との比較分析も含め、戦略の策定に係る傾向・特性や課題を抽出し、とりまとめを行います。また、学校へのフィードバックとして、概要報告資料の作成を行います。
- 自然環境に関する特性・課題抽出結果やアンケート結果をもとに、市民意識の醸成に精通する有識者へのヒアリングを行い、市民への周知資料としてとりまとめるとともに、「生物多様性のだ戦略」に反映を行います。

2. スケジュール（案）

社会環境調査に係る主なスケジュールの案を以下に示す。

令和元年度 (2019年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 第2回市民会議：社会環境（アンケート）調査の実施（案）の検討
令和2年度 (2020年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1回市民会議：社会環境（アンケート）調査の計画を決定 ● アンケート調査の実施 ● アンケート結果の集計・分析 →市民会議：調査結果の報告 ● 概要報告資料の作成 →学校へのフィードバック
令和3年度 (2021年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民意識の醸成に精通する有識者へのヒアリング ● 社会環境調査結果の取りまとめ ● 「第2期生物多様性のだ戦略」への反映

3. アンケート調査の実施（案）

■実施方法

- ・市内の小学校の協力を得て、小学校5年生の児童および、その保護者等を対象としたアンケートを実施します。
- ・子どもの保護者等へのアンケートは、子どもがインタビューする形をとることによって、大人の協力（回収率）を高めるとともに、子どもたちにとっての環境教育効果の向上に寄与するよう留意します。

■対象：市内の小学校5年生およびその保護者等

	<p>全市 20 校（5 年生児童：総計 1,313 人）</p> <ul style="list-style-type: none">□ 関宿北部地区：関宿小学校□ 関宿中部地区：二川小学校、関宿中央小学校□ 関宿南部地区：木間ヶ瀬小学校□ 川間地区：川間小学校、尾崎小学校□ 北部地区：北部小学校、七光台小学校、岩木小学校□ 中央地区：中央小学校、宮崎小学校、清水台小学校、柳沢小学校□ 南部地区：南部小学校、山崎小学校、みずき小学校□ 東部地区：東部小学校□ 福田地区：福田第一小学校、福田第二小学校、二ツ塚小学校
--	--

都市マスの地区区分

（全校対象に実施。回収率 90%とした場合、子ども用・保護者用のアンケート結果が約 1,093 通ずつ回収できる見込み。）

■アンケート内容

- ・生物多様性に関する認知度の把握。
 - ・市民が望む自然環境のあり方について把握する。
 - ・野田市の生きものの現状に関する市民の認識や情報を把握する。
- ↓
- ・過去の文献や現在の自然環境調査で把握できない生きもの情報を吸い上げる。
 - ・抽出した情報に対し世代間（子供・親世代・祖父母世代及び地区間での違い（ギャップ））を把握し、戦略に反映させていく。
 - ・子供たちが望む遊び場や自然を『子供からのメッセージ』として戦略に記載する等。

令和 2年 7月 日

小学校長 様

野田市長

「野田市生きものの豊かさアンケート」へのご協力のお願について
※前回調査における依頼文を元に一部変更したものです。

盛夏の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は野田市行政へのご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、野田市では、「生物多様性のだ戦略」の策定に向けた調査・検討を進めているところですが、その一環として、市内の全小学校5年生の児童およびその保護者等を対象とする「野田市生きものの豊かさアンケート」を実施したいと考えています。

アンケートでは、市内の子どもたちの現在の自然との関わりの状況や認識、その保護者の方々の自然に対する認識やニーズについて把握すること、更には、アンケートの実施を通じて、自然や生きものについて、考えていただく機会とすることを目的としています。

つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、下記要領で実施するアンケートに、ぜひご協力頂きたいようお願い申し上げます。

記

1. 対象：野田市内全小学校の5年生（約 1,313 人）とその保護者等
2. 実施方法
 - ①小学校5年生へのアンケート
 - ②小学校5年生が家に持ち帰り、父母・祖父母等にアンケートに沿ってインタビューを行う
3. 実施期間
令和 2年 7月20日（月）～9月10日（木）
4. その他
 - ・②については、宿題とするなど、回収率が上がるようご協力をお願いします。
 - ・上記の実施期間内に、連絡便で指導課に提出して頂きますようお願いいたします。
 - ・集計・解析結果は各校に提供させていただきます。環境教育等にご活用頂ければ幸いです。
(集計・解析結果の送付は、令和 3年 3月頃を予定しています。)

<問合せ・連絡先>

野田市みどりと水のまちづくり課（担当：〇〇、〇〇）

〒278-8550 野田市鶴奉7-1

04-7123-1195（直通）

midori@mail.city.noda.chiba.jp

※以下に、前回調査時におけるアンケートを例として添付します。



野田市 生きものの豊かさアンケート



こんにちは！
野田市では、来年、野田市内の生きものの豊かさを守り育てていくための計画を作る予定です。その計画に、みなさんの意見や情報を生かすため、アンケートを行います。ご協力よろしくお願いします。



このアンケートは、次の2つのアンケートからできています。

アンケート①：あなた自身の自然に対する考えや、よく遊んでいる自然の遊び場、見たことのある生きものなどについて、教えてください。

アンケート②：あなたのお父さん、お母さん、おじいさん、おばあさんに、あなたから、質問（インタビュー）をして、アンケートに記入してください。

<記入の仕方>

次の質問について、あてはまる数字を選んで○をつけてください。

正解・不正解というものはありませんので、あなたが思ったとおりに教えてください。

「その他」を選ぶときは、() 内に具体的な内容を書いてください。

【問0-1】あなたの通っている学校名を記入してください。

_____ 小学校 _____

【問0-1】あなたの性別を教えてください

- ① 男子 ② 女子

質問の中に読めない漢字や、意味の分からない言葉があったら手をあげて先生に聞いてください。

それでは、はじめてください。



【問1】自然のある場所の中で、ふだん、よく遊んでいる場所、よく行く場所は
どこですか？あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

1. 公園
 2. 神社・寺
 3. 川や川ぞいの草はら
 4. 田んぼや水路
 5. あき地
 6. 森や林
 7. 学校の校庭
 8. 外であそばない
 9. あそべる場所がない
 10. その他
- ()

【問2】外であそぶとき、どんなことをしてあそびますか？
あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

1. 虫とり
2. 魚とり・魚つり
3. 花つみ
4. 木のぼり
5. 水あそび
6. おにごっこ・かくれんぼなどのゲーム
7. 野球やドッジボール等のスポーツ
8. 外であそばない
9. その他 ()

【問3】次の生きもののうち、家の近くや通学路、あそび場には、どんな生きもの
がいますか？あてはまるものすべてを選び、○をつけてください。
また、他にも見たことがある生きものについては「その他」に書いてくだ
さい。

1. ホタル
2. カブトムシ
3. クツワムシ
4. メダカ
5. ドジョウ
6. トウキョウダルマガエル
7. アオダイショウ
8. ヒバリ
9. ツバメ
10. フクロウ
11. タヌキ
12. キツネ
13. わからない
14. その他 ()

【問4】家の近く、または野田市内にどんな自然があったらいいな、と思いますか？
今ある自然もふくめて、あてはまるものすべてに、○をつけてください。

1. バッタなどの虫とりができる原っぱ
 2. 魚つりができる小川や池
 3. 木のぼりができる森
 4. 野草や木の多い公園
 5. 谷^やつ（林に囲まれた谷の中の田んぼ）
 6. 生きものがたくさんくる広場
 7. 特に自然がほしいと思わない
 8. わからない
 9. その他
- ()



【問5】10年後、どんな生きものが野田市内でふえるといいな、と思いますか？あてはまるものすべてを選び、○をつけてください。また、他にも増えてほしい生きものについては「その他」に書いてください。

1. ホタル
2. カブトムシ
3. クツワムシ
4. メダカ
5. ドジョウ
6. トウキョウダルマガエル
7. アオダイショウ
8. ヒバリ
9. ツバメ
10. フクロウ
11. タヌキ
12. キツネ
13. わからない
14. その他 ()

【問6】10年後、野田市の自然や生きものがどうなったらいいと思いますか？また、野田市の自然や生きものについて気になっていることがありますか？あなたの思うことを自由に下のスペースに書いてください。

【問7】自然やたくさんの生きものを守っていくために、今、自分ができること・したいと思う事は、どんなことですか？あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 動物や植物をとらずに、観察するだけにする
2. みぢかな自然をしらべてみる
3. エネルギーや水、ものを大切に使う
4. 野田市以外からつれてきた動物を野田市の自然の中に放さない
5. 生きものの生息する場所（ビオトープ）をつくる
6. 自然や生きもの大切さを家族で話しあったり、友だちに伝える。
7. その他 ()

【問 8】「生物多様性（せいぶつたようせい）」という言葉を知っていますか？

1. 聞いたことがあり、意味も知っている
2. 聞いたことはあるが、意味はよく知らない
3. 知らない



【問 9】地球温だん化によって、もともと野田市にはすんでいなかったような、南の地方の生きものが、野田市にすみつくようになってきているということを知っていますか？

1. 聞いたことがあり、理由も知っている
2. 聞いたことはあるが、理由はよく知らない
3. 知らない

【問 10】ペットや野田市以外で捕まえてきた生きものを、外に放してはいけないということを知っていますか？

1. 聞いたことがあり、理由も知っている
2. 聞いたことはあるが、理由はよく知らない
3. 知らない

※「生物多様性（せいぶつたようせい）」について、クラスで話し合ってみてね！

ご協力ありがとうございました！

【問4】家の近く、または野田市内に、どんな自然があったらいいな、と思いますか？今ある自然もふくめて、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. バッタなどの虫とりができる原っぱ
2. 魚つりができる小川や池
3. 木のぼりができる森
4. 野草や木の多い公園
5. 谷つ（林に囲まれた谷の中の田んぼ）
6. 生きものがたくさんくる庭
7. 特に自然がほしいと思わない
8. わからない
9. その他（



【問5】将来（しょうらい）、子どもやまごの世代になったとき、どんな生きものが野田市内でふえるといいな、と思いますか？あてはまるものすべてを選び、○をつけてください。また、名前はないけれど、他にもふえてほしい生きものについては、「その他」に書いてください。

1. ホタル
2. カブトムシ
3. クツワムシ
4. メダカ
5. ドジョウ
6. トウキョウダルマガエル
7. アオダイショウ
8. ヒバリ
9. ツバメ
10. フクロウ
11. タヌキ
12. キツネ
13. わからない
14. その他

【問6】守り残していく必要があると思う野田市内の自然はどこですか？具体的な場所と理由をおしえてください。

<例>利根川、三ツ堀里山自然園、はきだし沼、〇〇神社の林等



■場所：

■理由：

【問7】将来（しょうらい）、子どもやまごの世代になったとき、野田市の自然や生きものがどうなったらいいと思いますか？また、野田市の自然や生きものについて気になっていることがありますか？

「生物多様性」とは？

地球にはわかっているだけで約175万種の生きものが生きています。まだ発見されていない生きものもあわせると3000万種にもなるといわれています。

生きものたちは川や森や草原、海といったさまざまな自然の中で、互いにバランスを保ちながら暮らしています。

このように、さまざまな自然に、たくさんの生きものたちが暮らしていることを**生物多様性**といいます。

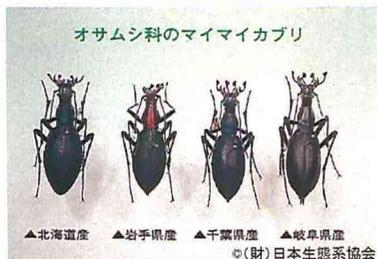


3つの生物多様性

①生きものが暮らせる、さまざまな自然環境があることを**生態系の多様性**といいます。

②いろいろな種類の生きものが暮らしていることを**種の多様性**といいます。

③同じ種類であっても、それぞれに個性があることを**遺伝子の多様性**といいます。



同じマイマイカブリだけど、地域によってこんなに違うんだね。

～生物の多様性によるめぐみ～

私たちの生活に欠かせない食べ物やエネルギー、衣服などすべてのものは**自然のめぐみ**によりできています。



生物多様性が守られないと、どうなるのかな？



(出典:「こども環境白書平成22年版」環境省)

生きものにせまる**危機**!!

1975年～2000年の25年間に、地球全体で4万種の生き物が**絶滅**したとされています。

これは1日に4種の生きものが絶滅した計算になります。なぜ多くの生きものが絶滅してしまったのでしょうか？

第一の危機 自然が壊される！

人間が自然を壊してしまうと、そこに住んでいる生きものは暮らせなくなります。



©(財)日本生態系協会

第二の危機 自然と人間のかかわりが薄れる！

昔からの「里地里山」の暮らしでは、田んぼで稲を育て、薪などを山からわけてもらっていました。しかし、人間が里地里山から離れたことで田んぼや山が荒れ、生き物が減ってしまいました。



©(財)日本生態系協会



隣のページの「サシバ」は田んぼの畔にいるカエルやヘビを食べる鳥だよ。だけど、田んぼが管理されないと草がのびてカエルを見つけることができないんだ。

第三の危機 持ち込まれた生きものが影響をあたえる！

もともとは地域の中になかった生きものがいることで、生きもの同士のバランスが崩れてしまいます。



アライグマはもともとアメリカに暮らしている動物だよ。だけど、可愛いからペットとして日本に連れて来られたんだ。逃げ出したり、飼いきれなくなって捨てられたアライグマが野外で増えて問題になっているよ。カメを捕まえたり、鳥の巣を壊したりして食べちゃうから、地域の生きものたちのバランスが崩れてしまうんだ。飼いだめた生きものは、責任をもってさいごまで育てようね。

そして、今なお多くの生きものが**絶滅**など、いろいろな**危機**にさらされています！

考えてみよう

私たちが生物多様性を守るためにできることはなんだろう？

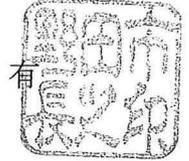




野自み第718号
令和2年 2月26日

野田市生物多様性のだ戦略市民会議
会長 長谷川 雅美 様

野田市長 鈴木



諮 問 書

野田市生物多様性のだ戦略市民会議条例（令和元年条例第16号）
第2条の規定に基づき、下記事項について諮問いたします。

記

諮問事項

平成27年3月に策定した「生物多様性のだ戦略」の進捗・成果を
はかるとともに、今後の更なる展開に向けて見直しをした「生物多様
性のだ戦略」の策定について

諮 問 理 由

「生物多様性のだ戦略」は、「生物多様性基本法」第 13 条に定められた生物多様性地域戦略であり、「生物多様性国家戦略 2010」を踏まえて策定したものです。本戦略は、野田市の総合計画において野田市の活力の維持・向上を目指す長期的な成長戦略として位置付け、5つの目標に沿って、2020 年までに実施する 33 の施策を集中的に取り組んできました。策定から 5 年が経過したことから生物多様性・自然再生事業の推進にあたり、今後の更なる展開に向けて見直しを行いたいと考えております。

野田市の自然環境づくりのシンボルであるコウノトリを野田市の自然環境や自然環境を活かした地域づくりのみならず、社会・経済・観光・教育・歴史などの観点を組み込んだ、市民目線での分かりやすい「生物多様性のだ戦略」の提案を求めたく諮問するものです。

答申希望時期：令和 3 年度中